

塚松山横穴群発掘調査概報

1993年9月

島根県簸川郡佐田町教育委員会



I 遺 跡 名	塚松山横穴群		
II 所 在 地	島根県簸川郡佐田町大字原田661の1他		
III 現地調査期間	平成5年9月5日～15日		
IV 調査主体	島根県簸川郡佐田町教育委員会		
V 事 務 局	島根県簸川郡佐田町教育委員会教育長	田 中 雄 治	
	〃 係長	佐 貴 守	
VI 調査担当	島根県八束郡鹿島町立鹿島中学校教諭	石 井 悠	
VII 調査指導	島根県仁多郡仁多町立布施小学校長	蓮 岡 法 明	
VIII 調査協力	島根県簸川郡佐田町農林課長補佐	大 谷 昌 武	

IX 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

塚松山横穴群の東側裾部で、総合型林業構造改善事業 林道整備と線開設工事が計画されたので、当該区域内の遺跡分布調査を島根県文化財保護指導委員杉原清一、藤原友子両氏に依頼して実施した。調査の結果、区域内には横穴等の文化財に関するものは見当たらなかったが、再度の検討を要する部分もある旨の報告があった。当該区域内は塚松山横穴群の隣接地でさらに実態を明らかにする必要が考慮されたので、この報告を尊重して発掘調査を実施した。

(2) 遺跡の立地

須佐川が北西方向へゆるやかに流路を変換するあたりの南側に位置する。このあたりは、せまいながらも平地が開け、須佐川の北には須佐神社が鎮座する。古墳や横穴群の集中してみられる地区である。今のところ縄文・弥生の遺跡は発見されていないようであるが、古い時代からの中心地といえよう。

遺跡の南側はなだらかな斜面となっていて、広い範囲で住居跡が存在する可能性もある。

(3) 調査方法

地形測量（1／100）を実施して、調査区を設定の上発掘調査を行った。検出された結果は、写真撮影や実測による記録をとった。

(4) 調査結果

① 検出遺構

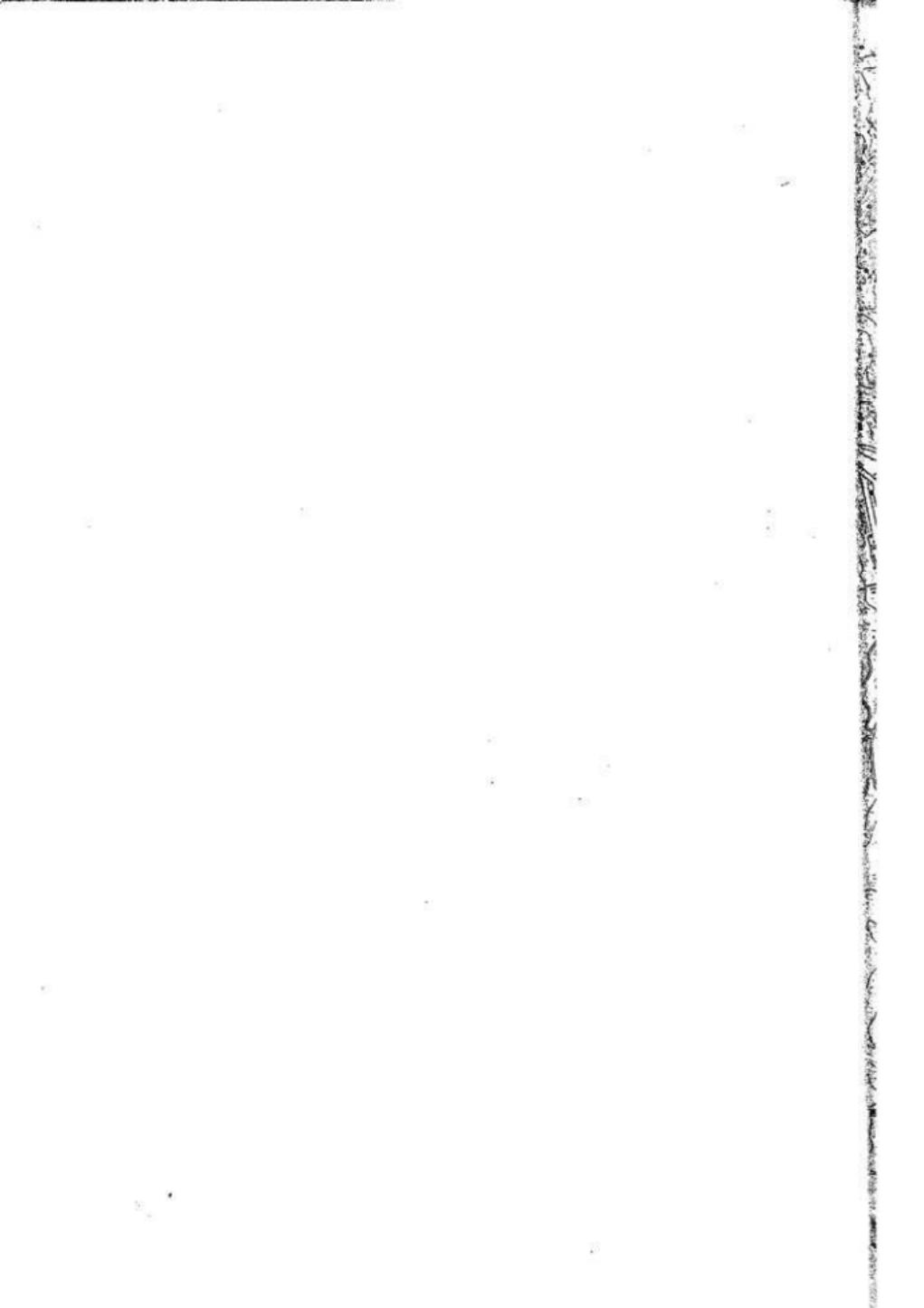
横穴群の裾部で、小崖下の緩斜面に調査区を設定した。発掘の結果、第1調査塙では、上から続く固い地山の崖面があらわれ、その下端から前面に向かって約1.5m幅の平坦面が検出された。なお、崖面の途中に幅10～20cmの不定形なテラス状の面が存在する。崖下の平坦面の端近くで径約60cm、深さ32cmのピットが検出された。第2調査塙は、調査期間の都合で、上から続く固い地山の崖面検出と平面的には表土までを発掘したのみである。

② 出土遺物

表土下の茶褐色土層から須恵器片18点が出土した。1点は、大型壺の口縁部で一条の凸帯と梅描き波状文が施されている。他の17点は、内面が竹管で調整された大型壺の類の胴破部片である。横穴群から転落したものであろう。

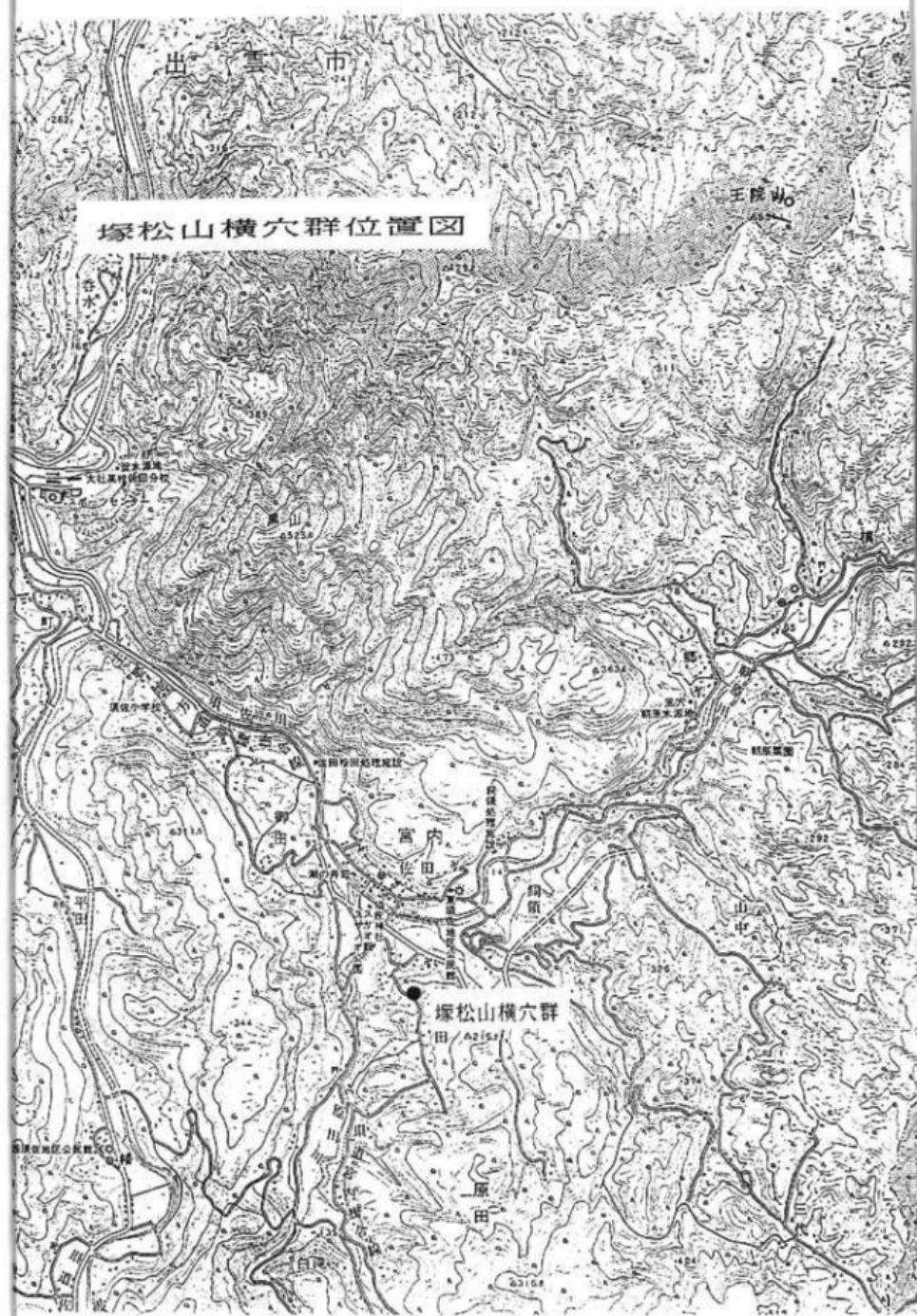
(5) まとめ

横穴そのものは検出されなかった。また、出土遺物や堆積土層から、検出された崖面および平坦面やピットと横穴群との直接の関係を認めることはできなかった。調査面積がせまいため、詳細は不明であるが、横穴群以外に住居跡が存在するかもしれない。

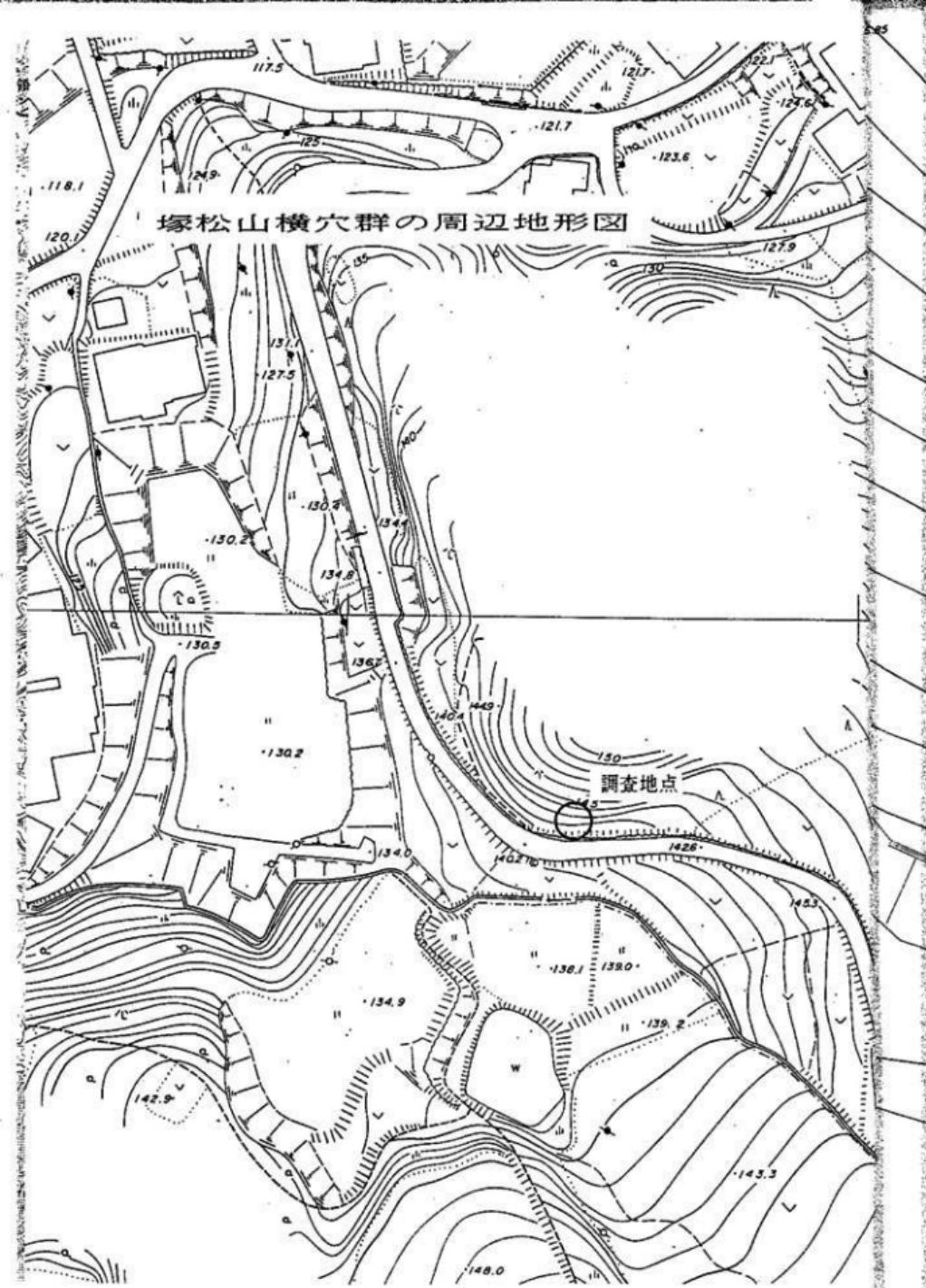


出雲市

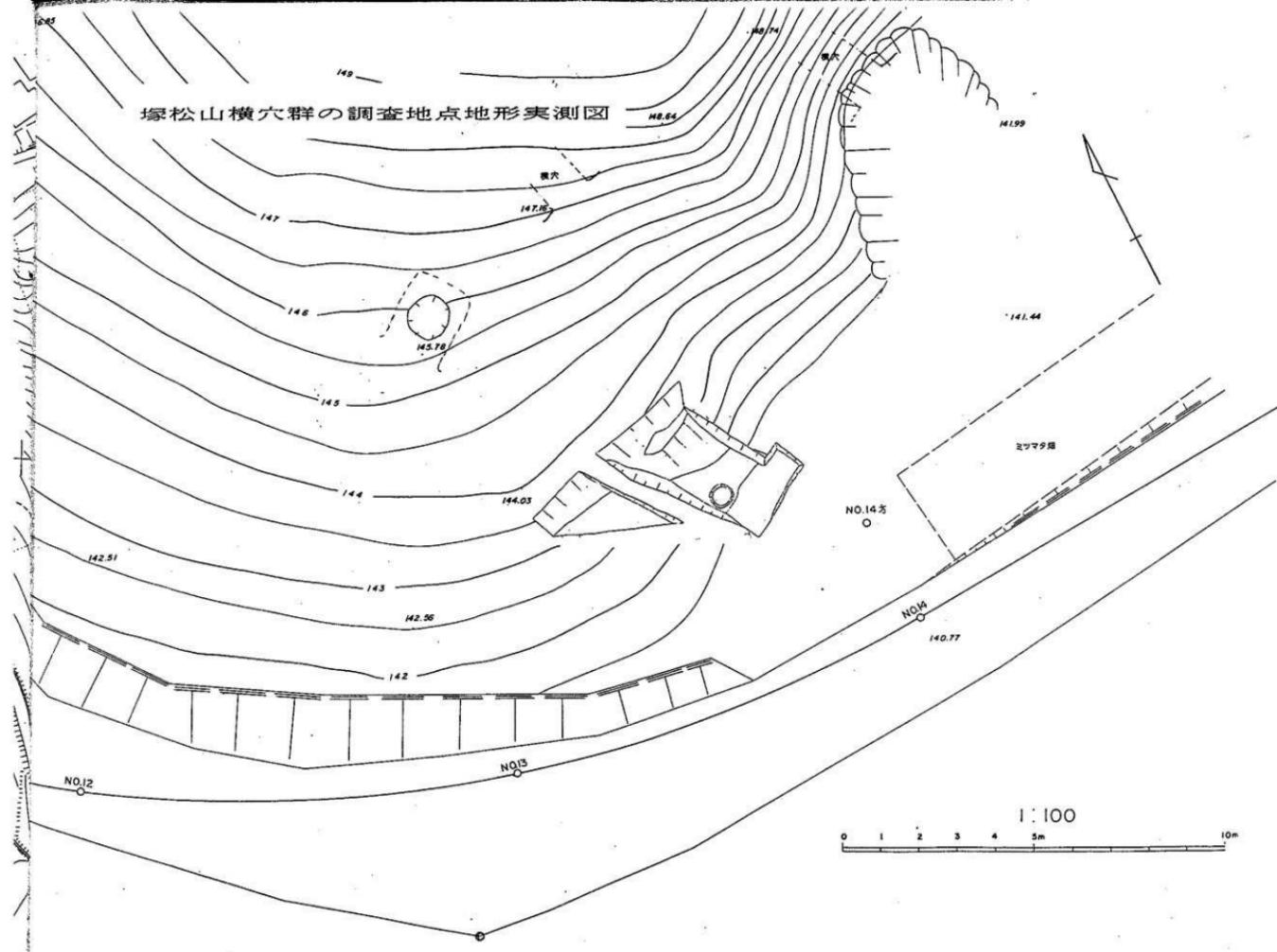
塚松山横穴群位置図



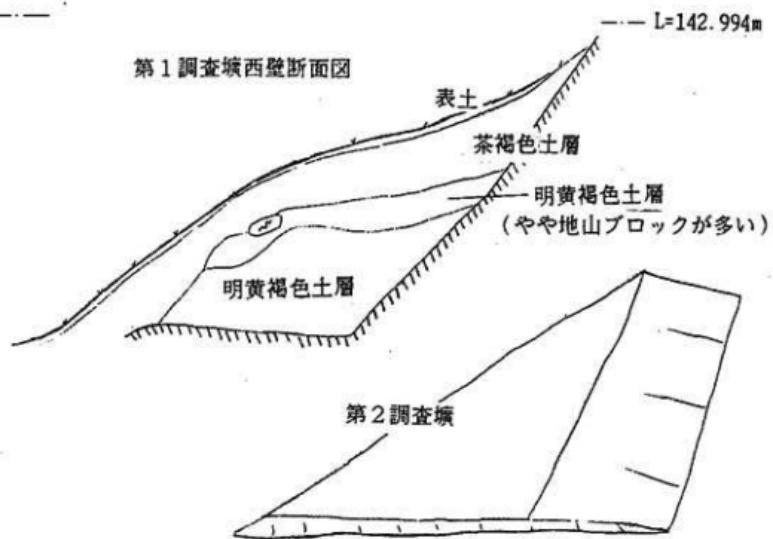
塙松山横穴群の周辺地形図



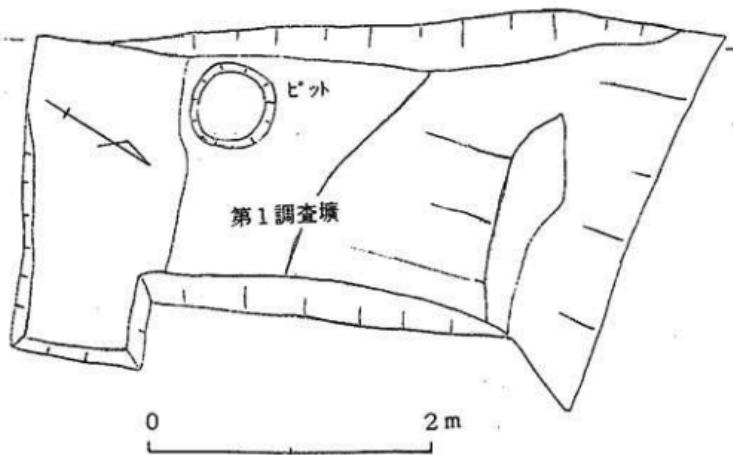
塙松山横穴群の調査地点地形実測図



第1調査墳西壁断面図



第2調査墳



余白



No. 7.

塙松山横穴群
調査地名: 這葉



No. 2

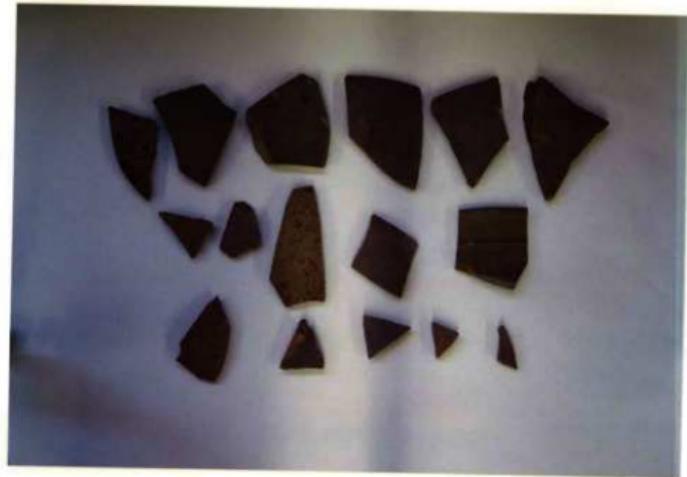
塙松山横穴群
調査地名: 這葉

余白

No. ⑨

壠松山櫛穴群

出土遺物



No.

余白